

憲法の歴史を考える

序 論

参考資料『昭和憲法史』1961, 岩波書店

『憲法現代史』上下, 1981, 日本評論社

『世界史のなかの憲法』1981, 労働旬報社

『日本の憲法』岩波新書 初版1957, 2版1977,
3版1994

第一章 憲法の歴史を見る基準

1) 憲法とはなにか?

『広辞苑』(日本), OED (イギリス), Littré (フランス)

の定義を手がかりにして

2) 主権概念の登場

君主主権と人民主権

3) 国家権力の規制原理

議会主義・権力の分立・法の支配について

4) 個人の自由と権利の保障

第二章 世界の憲法史にまなぶ

1) 17世紀 イングランドの憲法闘争

Instrument of Government (1653) と名誉革命 (1689)

2) 18世紀 アメリカ合衆国の独立と憲法制定 (1787),

フランス大革命と憲法 (1791, 1793, 1795…)

3) 19世紀のヨーロッパ諸国憲法

普仏戦争 (1870) のドイツ勝利と明治憲法 (1889)

4) 20世紀前半の2度の世界戦争

第三章 日本の憲法史を考える

1) 第1期 明治維新から明治憲法発布 (1889) までの無憲法状

態, 絶対主義天皇制の確立

2) 第2期 1889年から1945年

ポツダム宣言受諾と降伏文書の署名まで

明治憲法の分析

3) 第3期 1945年から1952年までの占領期

だれが憲法を作ったのか, 5つの説について

日本国憲法の分析と評価

4) 第4期 1952年から2000年

昭和憲法の現代史と現状分析

憲法の規定と現実の乖離について

現状変革の視点